

ゆき・えにしネット「被災した方を応援するために」号外

福祉と医療、現場と政策をつなぐ えにしネット <http://www.yuki-enishi.com/> には、現地からの声や報告がたくさん寄せられています。被災地で、自らも被災しながら支援ボランティアの縁の下の力持ちとして活動しているCLCからの2つの報告と、3月末から現地に入り25日間、寝食を忘れ取材を続けた朝日新聞記者の、上野創さんからの報告をご紹介します。

3月11日の震災が起きた時間、CLCの職員のほとんどは、東京や神戸におりました。翌日からの「気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」の準備の最中でした。

仙台に残っていた職員は、ふるさと雇用再生特別基金で取り組んでいる地域サロンに暮らす要介護の高齢者の避難や、震災で自宅に暮らせなくなった高齢者や不安定になった高齢者などの受け入れに取り組みました。

東京や神戸にいた職員が仙台に戻るまでの2～3日の間に、医療支援グループAMDA(アムダ)への拠点提供と協働活動を開始しました。

わたしたちは、まずは避難所や施設や在宅の要援護者の支援をと考え、「宅老所・グループホーム全国ネットワーク」や「特養・老健・医療施設ユニットケア研究会」、地元で高齢者や障害児者を支援する「社会福祉法人東北福祉会」、「社会福祉法人石巻祥心会」などと、3月13日に「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」を立ち上げ、①介護職や看護職などの専門職ボランティアの派遣、②物資の支援、③活動支援を始めました。

この中で特に注意していることは、それぞれの被災地の方々为主体的に復興していくことを支えるということです。応援する側は、勢い余って考えを押し付けてしまいがちですが、あまりにも甚大な被害に途方に暮れている被災地の人の気持ちに寄り添うような支援をと考えています。

仙台市と石巻市に寝泊まりや物資を置く拠点をづくりました。そのうえで、介護・看護職ボランティア800人に登録いただき、これまでに宮城県内の8市町の19か所の避難所・施設・病院などに延べ2,300人を派遣しています。同時に、物資の支援にも取り組んでいます。さらに、福島県や岩手県の支援にも取り組み始めています。福島県の南相馬市には、なかなか入ってこないピンポイントの物資を数日に一度届けています。また岩手県でも、医療関係の物資や、水没・流出した自動車の代替車両を、買い替えの予定者とのマッチングで提供しています。

これからは、福祉避難所の出口となるケア付き仮設住宅づくりや仮設住宅でのふれあいセンターなどの運営支援にも関わりが求められてくると考えています。

ともかく、それぞれの被災地で求められることを、半歩先一步先に準備をしていきたいと思っています。



東北関東大震災・共同支援ネットワークは、多くの皆さんとの協働、協力で、支えられています。CLCは、被災地の中にある団体として、運営の中核にいます。ただ本来業務をそっちのけで、大半の職員がほとんど休みなく関わらないと、要望に応えていけないのが現実です。今回初めて「えにしを結ぶ会」の事務局ボランティアの役割を担えないことを、たいへん申し訳なく思っています。

CLC 池田昌弘さんから

我ら「シュッシュ隊」 2011.03.28 Monday

ある避難所ではインフルエンザ等の感染症予防のために避難所にかかわる地元の保健師さんの呼びかけで換気と加湿を行うボランティア隊が結成されました。1日3回、館内アナウンスがかかると小・中学生が集合します。そこに我らが共同支援ネットワークのボランティア隊(通称赤エプロン隊)も合流し、各部屋を回ります!

それぞれが過ごしている部屋につくとまず始めに一列に並んでご挨拶をします。「今からシュッシュ隊活動をはじめます! よろしくお祈りします」ペコリ。あくまで子供たちが主体の活動です。みなさんからは温かく見守っていただき「ご苦労様～」とねぎらいの言葉も。

ちなみに、この赤いエプロンは栃木県のアジア学院から。そのほかにも栃木県のみなさんから、たくさんの物資をお届けいただいています。



我ら「体調管理隊」 2011.04.09 Saturday

長期に渡るボランティア活動において体調を崩される方も出てきました。そんな支援者を支援する活動の一つとして看護師の方を中心としたチームが結成されました。

各避難所での活動や健康状態をヒアリングすることによって必要な物資や課題も見えてきました。ボランティア期間をまっとうするためにも第3者から見た体調管理も必要となってきてます。



東北関東大震災・共同支援ネットワークブログより

おみやげは、「新たなえにし」o(^o^)(o^o^)(o^^)

◆「えにし」出生の秘密◆

福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会は、2001年5月12日、ここ、プレスセンターで誕生しました。制度や予算の壁にぶつかりながら道を切り開いている当事者や現場スタッフ、現場に学んで制度や政策をつくろうとしている行政官、首長、勉強熱心なメディア、研究機関のみなさん450人。それなのに。。。お互い知り合っていなかったのです。それに気付いた方々の間に、この日、不思議な「えにし」が結ばれました。そして、毎年、「新たなえにしを結ぶ会」が開かれることになり、ことし、第11回を迎えました。

◆糸へんづくし◆

胸元の名札の上下、このページの上下の縁飾りにお気づきになりましたか？ 拡大すると、

縁…絆…緑…絡…緑…紡…緑…編…緑…網…緑…繋…緑…繰…緑…繰…緑…紀…縁…紗

「縁」という字のあいだに糸へんの字がはさまれています。グラフィックデザイナー、牧ローニさんが、つどいのために、デザインしてくださいました。メッセージが添えられていました。「人間っていろんな糸へんが絡みあい、紡ぎあって、編まれているんですね。ネット（網）とか、繋がるとか。人と人の絆や縁に不思議なパワーを感じています。どうぞいつまでも継続していただけますように。結び。……な～んちゃって」。糸へん飾りのついた名札は、ケースからはずして記念に、どうぞ(^_-)☆。

◆「えにし」のホームページと「えにしメール」と◆

志をつなぐ道具は、えにしのHP、<http://www.yuki-enishi.com/> と「えにしメール」、そして、年に1度の「えにし」のつどいです。「えにしメール」は、マスメディアではあまり報じられない、でも大切な、「えにし」のみなさまの活躍をお知らせしています。2001年には30通だったのが、いまは、米、英、仏、独、伊、北欧諸国、マレーシア、韓国…と、国境も越えて広がって4000通を越えました。「えにし」のつどいも変わりました。第1回、メディアは朝日新聞、お役所は厚生労働省でした。きょうの名簿をごらんになると、あらゆる種類のメディア、そして、文部科学省、財務省、国土交通省、経済産業省、内閣府、総務省と多彩になりました。「えにし」の方々をご紹介してきたHPの2つの部屋は『恋するようにボランティアを～優しき挑戦者たち』（ぶどう社）と『物語・介護保険』（岩波書店）になりました。『物語』下巻には530人の登場人物の索引がついていますが、目ざましい活躍をしているのは「えにし」の方々です。



◆「つどい」の3つのシキタリ◆

- その1:** 毎回、多彩、豪華な「えにし」の方が登壇してくださいますが、どんなに高名な方でも、講演料ナシ。「素晴らしい参加者の前で話すことができる、それは、“権利”なのだ」という理屈からです。このような催しにかかせないのが裏方です。この10年間、全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）のみなさんが義侠心で引き受けてくださっていました。仙台に本拠があるそのCLCのみなさんを震災が襲いました。それでも、いまこの瞬間も、震災被災の現場で、特技をもつボランティアとそれを必要とする方たちの縁結びに走りまわっておられます。詳しくは30～31ページを。
- その2:** 「えにし」を結ぶには、情報保障が欠かせません。プロによるパソコン要約筆記、手話、磁気テープ、指点字を用意することが慣例になりました。詳細は、「えにし結び名簿」の最終ページをご覧ください。だれもが参加できるように、介助者からは参加費をいただかないのも慣例です。お子さまづれへの支援も始めました。
- その3:** 席は、籤引き。「新たなえにしを結ぶためです。話の糸口になる「名札」と「えにし結び名簿」を用意しました。恋が偶然の機会から生まれるように、名簿と胸の名札、そして、籤で偶然近くに坐った方と、日本を変える「えにし」が結ばれますように。